

火災原因を知る

消防白書によれば、火災の発生件数は、減少傾向ですが、3万5,222件(令和3年)となっています。死者数や損害額も横ばいであり、引き続き、火災予防が重要です。

火災原因のランキングを確認し火災が起こりやすい場所、要因を知り、火災防止をしましょう。

<<火災の経済的、人命に対する影響>>

令和3年の火災死者数1,417人、負傷者数5,433人で、損害額は1,042億円と減少傾向にある。火災原因の一般的なランキングは、被害額別に見た場合の出火原因のワースト3は、次の通りです。

- ・1位 放火の疑い
- ・2位 放火
- ・3位 電灯電話等の配線

<<火災原因の一般的なランキング>>

令和3年中に起きた火災の原因として最も多いのが「たばこ」、次いで「たき火」、「こんろ」と続きます。

- ・1位 たばこ 3,402件
- ・2位 たき火 2,764件
- ・3位 こんろ 2,678件
- ・4位 放火 2,333件
- ・5位 電気機器 1,816件
- ・6位 火入れ 1,640件
- ・7位 放火の疑い 1,555件
- ・8位 電灯電話等の配線 1,473件
- ・9位 配線器具 1,354件
- ・10位 ストーブ 1,091件

※これらの出火原因を特性別にカテゴライズすると、下の4種類に分けられます。

電気関連の問題

5位の「電気機器」や8位の「電灯電話等の配線」、9位の「配線器具」、12位の「電気装置」、10位の「ストーブ」のうち、電気ストーブも該当する。

電化製品の不適切利用やコンセントを正しく使用していない、電気工事の漏電などが原因

人間の過失

1位の「たばこ」や2位の「たき火」、3位の「コンロ」、4位の「放火」、6位の「火入れ」など、火の不始末といった人間の過失や悪意による火災です。

たばこもたき火もコンロも、使用した本人が確実に火を消してその場を離れれば、火災は起きません。

※火入れとは、造林や焼畑、害虫駆除の目的で、森林や隣接する原野を焼却することをいい、火入れが終わった後、その場を離れた結果、火の粉が飛んで燃え移り、火災が起きるとみられています。

自然災害

10位までに入っていないが落雷による火災も発生し落雷数の多い新潟県では、住宅や高齢者施設への落雷が原因の火災が発生しています。

<<各原因の具体的な対策と予防方法>>

電気関連の問題

電気関連の火災は、トラッキング現象やショートによるものが大半です。

トラッキング現象とは、コンセントとプラグの間の埃が湿気でショートし加熱・発火する事です。

※防止には、たこ足配線を避け、利用しない時はコンセントから抜き、古いプラグのタップは使用しない

予防法があり、電化製品の定期点検やメンテナンスも大切です。

人間の過失への対策

コンロやたばこなど、火を扱う際は火が確実に消えるまで、その場を離れたり目を離したりしないこと。ヒューマンエラーを少なくするために一定の温度や時間で自動消化する機能や自動消火式の安全灰皿を購入し、過失を技術でカバーするという考え方も有効です。

消火器や簡易消火具を設備しておくことも大切で、消火器具があれば、初期消火したり、火の勢いを弱めて避難時間を確保できます。

自然災害への対策

落雷火災の発生は、電柱に落雷した場合や、ガス管に落雷した場合です。前者では、落雷により電線に過電流が流れトラッキング現象やショートが起きて出火します。後者では、地中のガス管に電流が流れ込み、接続回路に到達すると爆発し、火災に発展します。

落雷火災を防ぐには、アース端子を設置して電流を逃がしたり、落雷防護機器を設置して過剰な電流を流さない、電化製品のプラグをコンセントから抜くと有効です。また、避雷針や避雷装置の設置や、落雷防止の為に周囲の樹木の剪定や除去も有効です。

<<地震火災>>

地震が発生すると併せて火災が起きるのはご存じでしょう、停電後の復旧時火災も踏まえて対策を考えます。

普段の対策 色付きは効果的・現実的な対策

- ・住宅の耐震性を確保 :地震に対する強靱化
- ・家具等の転倒防止(固定) :散乱防止
- ・**感震ブレーカーを設置** :地震で自動的に遮断する
- ・ストーブ等の暖房機器の周辺は整理整頓、可燃物を近くに置かない :転倒時の延焼防止
- ・住宅用火災警報器を設置 :火災の早期発見
- ・地震後の行動を準備・確認 :地震時の行動確認
- ・**停電中は電化製品をコンセントから抜く** :通電時の発火防止
- ・石油ストーブ等の油漏れの確認 :点火の確認
- ・**避難時はブレーカーを落とす** :通電時の発火防止
- ・ガス機器、電化製品、石油器具の**使用再開時は破損等の確認** :使用再開時の出火防止
- ・再通電後は異常(煙、におい)を確認 :再使用時の出火防止
- ・地域での地震火災を把握 :延焼防止
- ・消防団や自主防災組織や地域の防災訓練へ参加 :情報収集

地震での火災原因

- ・転倒した家具の下敷きになり**損傷した配線などに再通電し、発熱発火する**
- ・落下したカーテンや洗濯物といった**可燃物がヒーターに接触した状態で再通電し、着火する**
- ・再通電時に発生した**電気的花火により、漏れ出たガスに引火・爆発する**
- ・家屋への浸水や雨漏りによる、**電化製品の再通電時にショートが生じ発火する**
- ・コンセントに水分が付着し、**再通電時にトラッキングが生じ発火する**

通電火災の対策と対応

- ・停電時は電化製品のスイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く
- ・停電中に自宅から離れる際は、ブレーカーを必ず落とす
- ・復電後は、電化製品の破損や、配線、コードの損傷を確認後に使用し様子を見る
- ・水に濡れた電化製品は使用を禁止

<<まとめ>>

一度火災が起きれば、人命を始め、自然や文化遺産など、失えば二度と取り戻せないものを焼き尽くしてしまう恐れがあります。出火原因を把握し、各原因に対して適切な対処で火災を予防しましょう。避難経路の確認や初期消火のための消火用具を用意しておくことも重要です。

北海道ドローン研究会